

# MEMORY of STONES HIROSHIMA-NAGASAKI

平成18年7月8日(土) — 8月20日(日)

開館時間 午前9時—午後4時

休館日 月曜日(祝日の場合は火曜日)

入館料 大人250円(団体30名様以上190円)  
小人(中学生以下)130円(団体30名様以上100円)

お問い合わせ: 018-889-2461

秋田市手形字大沢28番地の2

秋田駅前中央交通大学病院行き鉱業博物館入口下車、徒歩5分



## 前期企画展講演会

会場 秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館 講堂

日時 7月8日(土) 午後1時~2時30分

講演者 東京大学総合研究博物館 田賀井 篤平氏  
演題 「石の記憶」その1

日時 8月19日(土) 午後1時~2時30分

講演者 東京大学総合文化研究科 橘 由里香氏  
演題 「石の記憶」その2

# 石の記憶

## —ヒロシマ・ナガサキ

—被爆試料に注がれた科学者の目—

秋田大学工学資源学部 附属鉱業博物館2006年度前期企画展

主催 秋田大学/東京大学総合研究博物館/株式会社丹青社  
後援 秋田県教育委員会/秋田市教育委員会  
協賛 財団法人 秋田大学工学資源学部鉱業博物館後援会  
協力 (有)東京トラックス

AKITA UNIVERSITY

MINERAL INDUSTRY MUSEUM

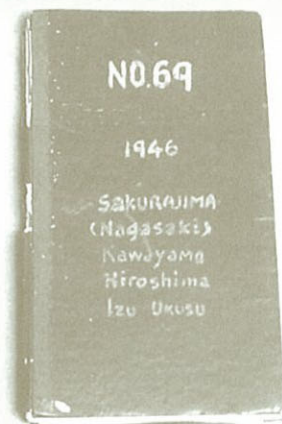
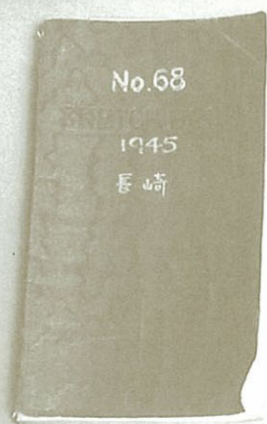
kurako.mus.akita-u.ac.jp



# 東京大学総合研究博物館・岩石鉱床部門の資料室の一角に「被爆試料」とだけ伝えられている試料群があった。

それらの試料群の謎は、秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館が所蔵している試料の基本台帳「野帳（フィールドノート）」から、解き明かされた。

故渡辺武男教授が原爆投下後の広島と長崎で原爆被害調査を行った時に集めた被爆資料。残されていたものは広島護国神社の狛犬とされる標本を含む石や瓦が約150点。35mmフィルムネガ約100枚に紙焼写真約30枚、調査関連の書類。



地質学者である渡辺武男が原爆被害の調査を行う。これを聞いてピンとこない人も多いだろう。渡辺自身、原子爆弾についての予備知識は皆無に等しく、現地で何が待ち受け、どのように調査をするべきなのかも解っていなかった。そのような状況の中で、野外調査の達人である「地質学者渡辺」は何に着眼し、どのような調査をしたのだろうか？それは、渡辺の残した野帳や試料などを再調査することで見えてくる。本企画展では彼の足跡をたどり、これら残された試・資料の持つ情報を再生することで、その研究を現在に蘇らせた。

本企画展では、東京大学総合研究博物館が所蔵する、渡辺が広島・長崎を調査する中で収集した岩石や建材などの被爆資料や数多くの写真に加えて、秋田大学工学資源学部附属鉱業博物館が所蔵する渡辺が遺した当時の調査状況を記した野帳の一部もコピーで展示する。

そして本企画展のもう一つの特徴は、それら試・資料に内包された意味や情報を、インスタレーションを用いた展示方法により、「科学者のマインド」を研究者のあくなきチャレンジへのダイナミズムを明らかにする実験展示を行うことである。

## 渡辺武男東京大学・秋田大学名誉教授

1907（明治40）年東京牛込に生まれる。第一高等学校を経て東京帝国大学理学部地質学教室に入学。同学部卒業後、北海道大学理学部助手、教授を経て、1944（昭和19）年東京帝国大学理学部地質学教室の教授。1968年から1971年まで名古屋大学理学部教授、1971年から1976年まで秋田大学長。秋田大学を去られて10年後の1986年に逝去された。40年以上に及ぶ研究生活では、一貫して鉱床の調査と形成過程をテーマとしている。

そんな渡辺の研究の中で異彩を放つものが、被爆調査団のメンバーとして行った被爆地の現地調査である。

## 原子爆弾災害調査研究特別委員会（被爆調査団）

1945年9月に文部省（当時）は、我が国の科学の総力を挙げて広島・長崎の原爆被害の実情を調査するために、学術研究会議に原子爆弾災害調査研究特別委員会を設立した。渡辺は物理学化学地学科会の地学班の長としてこの調査を行った。

